



留学生と一緒に中国ホストタウンの機運醸成を図る ～地域に根差した交流から多文化共生を～

東村山市市民部市民相談・交流課多文化共生係

東村山市は2004年に中国蘇州市と友好交流都市の協定を締結し、以降、市民団体とともに教育交流などを継続してきました。そのような中、東村山市は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、2017年7月に中華人民共和国のホストタウンに登録されました。

早速、ホストタウンとしての機運醸成を図るため、両国の小学生サッカー交流などスポーツを通じた交流が始まり、2018年には国際交流事業の一つとして「中国留学生受入事業」がスタートしました。

この事業は、独立行政法人国際交流基金日中交流センターが実施している中国の高校生を日本に留学させる「心連心：中国高校生長期招へい事業」に、自治体として初めて連携し、実施したものです。中国、特に友好交流都市である蘇州市の高校生が市内高校に留学することで市民との交流を図り、ホストタウンの啓発を目指しています。



中国からの留学生陶詩涵さんの振袖姿

地域住民との交流およびホストタウン事業のPR

2018年9月初旬、高校1年生の陶詩涵（とうしかん）さんが中国蘇州市より東村山市にやってきました。陶さんは、2019年7月までの約1年間、市内のホストファミリーにお世話になりながら市内の高校に通い、日本の社会や文化をより深く理解するとともに、同世代の日本人との友情関係を育みます。また、市内のさまざまなイベントに参加し、日本文化の体験や地域住民との交流、そしてホストタウンアンバサダーとして活躍いただいています。

(1) 市役所での歓迎会

陶さんの歓迎会を市役所にて開催しました。歓迎会には渡部尚東村山市長をはじめ、中国大使館や外務省など、多くのご来賓の方々から温かい歓迎のことばをいただきました。陶さんは上手な日本語であいさつし、会場からは大きな拍手が送られました。来日してまだ数日であり、とても緊張していたと思いますが、通学先の明治学院東村山高等学校の先生やクラスメイトも会場に駆け付けてくれたことは、陶さんにとってとても感動的なスタートとなりました。



歓迎会で初めての自己紹介

(2) 地域でのふれあいと日本文化体験

秋晴れの休日、ホームステイ先の地域にある金山神社の例大祭に参加しました。大勢の人たちが集まり、とても賑わう地域の伝統あるお祭りで、陶さんは山車を引いたり、太鼓を叩いたり、興味津々で楽しみました。



祭ばやしの山車と記念撮影

また、市内全13町の対抗戦で行われる市民大運動会にもホームステイ先の町民チームの一員として参加しました。チーム一丸となった綱引きでは大いに盛り上がりました。



市民大運動会で一生懸命つなをひく姿

市の歴史を勉強するため、縄文時代の遺跡がねむる「しもやけいせき下宅部遺跡はっけんのもり」や体験学習施設「はちこくやま八国山たいけんの里」で縄文体験をしました。また、「東村山ふるさと歴史館」では、市の伝統食である手打ちうどん作りにチャレンジし、参加者と一緒に作りたてのうどんを頬張りました。



市内の小学生と一緒に縄文体験

(3) 給食でホストタウン中国に親しもう! China Week

市内小・中学校の給食に陶さんおすすめの中国料理を取り入れ、児童・生徒のみなさんに味わっていただきました。その中でも『蘇州麺』は大好評で、おかわりの列ができるほどでした。



陶 詩涵さんが監修した中国風学校給食

心が通い合う交流から 多文化共生社会を目指して

「外国人」と言うだけで、「言葉が通じない」「文化が違う」と思ってしまい、話してみたくてもなかなかきっかけがなく、交流をあきらめてしまうことが多いのではないのでしょうか。

私たちは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の中国のホストタウンとして、何ができるのか考えてきました。あれこれ思いを巡らせているうちに辿り着いたのは「外国人と身近で交流すること」でした。その一つとして「中国留学生受入事業」があります。陶さんは学校生活を優先しながらさまざまなイベントに参加し、市民との交流を続けています。陶さん自身も最初は緊張から言葉が少なかったりもしましたが、地域の皆さんとの温かいふれあいの中で徐々に打ち解け、今ではすっかり地域の一員として生活をしています。陶さんには引き続き、東村山市と中国の橋渡し役として心が通い合う交流を行いながら、中国のホストタウンのアンバサダーとして活躍していただきたいと思っています。

今後もこうした取り組みを通じて、より多くの市民が外国人を身近に感じ、国際理解、多文化共生社会へのきっかけとなることを目指していきます。